

# 医師の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制

- 1. 責任者：副院長 木村 真奈美
  - 2. 医師数：常勤 17 名、非常勤：68 名
  - 3. 常勤医師(週当)勤務時間：38.75 時間（育児短時間勤務者除く）
  - 4. 超過勤務時間数（直近 1 カ月）：平均 18.1 時間/月（※常勤のみ）
  - 5. 当直回数（小数点 1 位まで）：平均 0.4 回/月（※常勤のみ）
- （※2024 年 4 月現在の医師の勤務状況）

## 目標

医師、看護師不足が深刻化するなかにおいて、勤務するものに疲弊感の増すことがなきよう、医師、看護師確保対策や診療業務の見直しを図るとともに、勤務医の業務における他職種への分担見直しも検討し、医師が働きやすい環境体制を中期的に図れることを目標として計画を立てる。

## 業務の役割分担

### 現状・問題点

- ① 医師に係る業務が非常に多く煩雑となり、大きな負担となっている。
- ② 各職種の業務役割分担が不明瞭、多職種で実施可能な医療行為が行えているか。
- ③ 勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制となっているか。
- ④ 当直翌日の業務内容に対する配慮はなされているか。
- ⑤ 入院中の療養生活に関する対応。

### 目標

- ① 医師の本来の業務である診療業務に専念してもらうよう多職種への分担が可能なものを振分け、業務軽減を図る。医師事務作業補助者の業務内容の調整。医師へ業務可能な範囲を伝える。
- ② 各職種が実施している業務内容を把握したうえで、適切な役割分担に関する具体策を整理する。看護師が可能な業務を整理し、病院全体に周知する。
- ③ 常勤医師の当直業務負担を減らすべく、毎年安定的に非常勤医師を確保し、医師一人に対する当直勤務の制限をかけていく。
- ④ 当直勤務の開始時間（17:15～翌 8:30）以外については、勤務に就かせないことを徹底する。
- ⑤ 看護職員が医師の治療方針や患者の状態を踏まえて積極的に対応する。

### 具体的な計画

- ・ 医師事務作業補助者等を配置し、医師の業務軽減を図る。各診療科ならびに医師の業務状況の把握。
- ・ 各職種や部署の責任者と各職種の役割分担、可能な業務について整理を行う。
- ・ 非常勤医師の派遣等により当直可能医師数を増員し常勤医師の負担軽減を図る。
- ・ 一定数の医師確保により、通常業務と当直業務の担当医師を分担する。
- ・ 安静度や食事の変更等療養生活全般について、現在行われている治療との関係に配慮し、医師の治療方針や患者の状態を踏まえて対応する。

## 救急診療

### 現状・問題点

休日等における救急業務について少ない医師の中で年間の輪番二次救急当番等を請け負っている。

### 目標

医師の確保対策を強化するとともに救急当番の割り振りを医師数に調整していく方向で図って行く。

### 具体的な計画

済生会滋賀県病院ならびに滋賀医大からの、平日における医師派遣。

## システム化

### 現状・問題点

医師が記載して行う文書業務がまだまだ現存として残っているのが現状である。

### 目標

書類の記入が必要なものを可能な限り電子化し業務軽減を図り容易に文書が管理できるように努める。

### 具体的な計画

書類作成ツールを簡単便利な仕様に見直し、事務的な記載量を減少させる。

## 医師確保

### 現状・問題点

常勤医師が徐々に減少傾向にあり、診療体制の見直しが必要な診療科も出てきている。

### 目標

回りハ病棟の立ち上げを見据え、必要な診療科の医師を確保できるよう目標を掲げる。

### 具体的な計画

大学等への要請を積極的に図る。伝手を活用しての医師派遣要請。